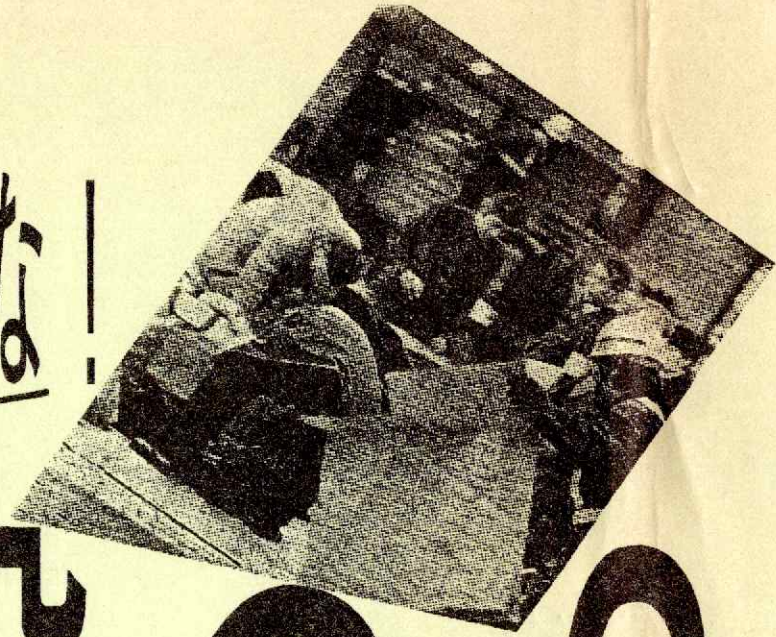


あの日を忘れるな！



反撃の2・17

2・17一カ年・野宿労働者統一行動 基調

主催

新宿野宿労働者の生活・就労保障を求める連絡会議（新宿連絡会）
山谷と新宿をつらぬく反失業闘争実行委員会（準）

2・17野宿労働者統一行動基調（案）

基調提起 新宿連絡会・事務局

「はじめに「俺たちにとっての2・17とは？」

野宿を強いられている全都の仲間たち！

昨年（こぞ）の2・17一斉叩き出しからまる1年がたった。俺らの脳裏に浮かぶのは、あの日の新宿の仲間の痛苦な叫びであり、また打ちひしがれた仲間の顔である。そして、俺らの脳裏に浮かぶのは、あの日から解き放たれた新宿の仲間の怒りのたかいた隊列である。

「荷物をどかせ！」「ここから出ていけ！」俺らの寝所を襲ってきたポリと役人共の罵声を昨日の事のように思い出す仲間も多いだろう。ダンボールハウスを有無もいわず解体するヘルメット姿の作業員の顔を思いだす仲間も多いだろう。奴等（やつら）はあの日、三百人近い仲間の寝所を襲い、2トントラックで6台分もの毛布、荷物を一斉に強奪して行った。そして、300メートルの都庁に向かう通路を、片側は、全面的にフェンスで覆い、封鎖し、片側は植木鉢を設置し俺たちの寝場所を奪った。そして、区（く）の連中は「街頭相談」を実施し、一一八名の仲間を「大田寮」に連れ去った。

「環境整備」「人命保護」こんな言葉が、マスコミを通じて飛び交った。が、毛布、荷物を奪われた仲間はガタガタと震える、まんじりもしない夜を強制され、大田寮に連れ去られた仲間もたった二週間で寒空の中、再び放り出された。そして二月、三月と相ついで、二名の仲間が路上で亡くなった。

こうして、2月17日という日は、怒りの日、憎しみの日として、俺らの歴史の中に刻印された。

何故、俺らだけが、こんな仕打ちを受けなければならないのか？

失業し、野宿生活を余儀なくされた俺らは、「浮浪者」だ「ルンペン」だと、人々の蔑みを受けながらも、仕事を必死で探し、飯を必死で探しながら生きてきた。人間としての、労働者としての誇り（ほこり）をもちながら必死で生きてきた。行政の奴等は仕事をしろと口々に言うが、何の援助もしてくれない。病気になるっても同じだ。死ぬまぎわじゃなければ福祉など相手にしてくれない。そして終いには、俺らは労働者じゃない、人間じゃないと、ゴミ同然に、追い出され、身ぐるみ剥がされ、棄てられる。

虐げられ、蔑まれてきた俺らの積もり積もった長年の怒りは、2・17の一斉叩き出しで我が慢の限界に達した。

「俺たちはゴミじゃない！」「奪った荷物をすぐさま返せ！」それは、あまりにも当然の声だった。俺らの怒りは解き放たれ、東京都、新宿区との戦争が始まった。

2月17日という日は、殺されかかった俺らが、生きるために立ち上がった日でもある。

一説によると、とある政府筋の人間が「国際都市東京の玄関に在る新宿のホームレスは日本の恥だ」ともらした事から、都知事鈴木が直轄の企画審議室に指示し、2・17一斉叩き出しを立案・実行させたと言われている。この説を裏づけるように、行政の奴等はグルになり、示しあわせ、「一斉撤去」を組織的に徹底的に行なった。

このことは、奴等が、国家の意思として俺たちの排除と抹殺を決定したということである。「不況の中、いらなくなった労働者は、みっともないから処分してしまえ」と決定したという事である。2月17日とは、この恐ろしい計画を国が本格的に開始した日でもある。

だけど、俺らは、好き好んで野宿をしている訳ではない。望んでいるものは皆、同じだ。自分にあつた仕事先を見つけ、自分の働いた金でうまいものを食い、暖かい布団の中で寝る。しかしそれがままならないから、俺たちは野宿をしているんだ。失業して野宿生活になつた者を誰が雇ってくれるのか？建築現場の日雇や、出張仕事にしてもこの不況で仕事がなく、あつたとしても週2日。あとは小遣い程度の収入しかない。これでどうしてヤサを探せというのか？

誰もが最初は自分を恨む。が、雇用保障や社会保障が完備してなく、俺たち日雇や下層の労働者に景気のツケがいつも回る、使い捨ての仕打ちを振りかえると、自分だけが悪い訳ではないことに気付く。憲法を読む。そこには、「勤労の権利と義務」「健康で文化的な最低限度の生活を営む権利」と、書いてある。仕事から遠ざけられ、残飯を食らう野宿生活と、憲法の条文を読み比べてみれば、一体誰が悪いのかが見えてくる。俺らは野宿を強いられているんだと。

が、それを、国は、行政の奴等は、まるで、野宿している俺らが全面的に悪いかのように言い立てる。国の責任、行政の責任を棚にあげ、「働く気のない路上生活者」だと言い立て、「社会の役にたたない人間」だと言い立て俺らにレッテルを貼る。そして、俺らを大量に処分しようと決意を固めた。

アウシュビッツはクリーンベルリンから始まつた。そして、今日、クリーン東京は、野宿者に標的をすえた。野宿者狩りは「労働者の権利」を根底から揺るがすだろう。野宿者狩りは、金のかからない日雇・下層労働者の処分方法だろう。野宿者狩りは競争社会の掟となり、国家に忠実な青年を育てるだろう。野宿者狩りは、人の痛みを麻痺させ、差別をはびこらせるだろう………。

2・17は、新宿だけの問題ではない。全ての野宿を強いられている仲間の問題だ。2・17を許すことは、全都の野宿者狩りを許すということだ。俺らの運命にかかっているだけでは、俺らの社会全体にかかってくる問題でもあるんだ。

そして、2・17に反撃するには新宿の仲間のみならず、山谷の仲間のみならず、駄目だ。上野や浅草、池袋や馬場や渋谷、東京や銀座その他、都内各地に散り散りと散らばっている野宿を強いられた日雇・下層の仲間の結集した力こそが、2・17の攻撃を打ち破れる力だ。

野宿労働者よ団結せよ！生きていくために団結せよ！

今日の統一行動はそのための第1歩だ。

仲間たち！2・17を忘れず、2・17を撃ち破れ！2・17への真の反撃は、23区の仲間の隊列で今日から開始される。仲間たち！共に歩もう！

二、分断を許さず結びつこう！

新宿においては、この2月17日以降、4派にわたる都庁連続弾劾行動が鳴り響き、仲間のだたかいが開始された。黙っていたら殺される。殺されようとした俺らの生の怒りの声を都庁や社会にぶつけようと、俺らは東京都、新宿区とのたたかいをいどんだ。「追い出しやめろ！荷物返せ！」と、俺らはデモ行進しながら都庁に乗り込み、企画審議室、建設局、福祉局、そして都議会議場への抗議行動を展開した。俺らの声は贅沢豪華な都庁内に響き渡り、俺らの反撃など夢にも思わなかっただろう2・17に手を染めた担当部局の連中は戦々恐々として逃げまわった。そして奪われた荷物をこぞって取り戻し、追い出しに反対し、新宿で生き抜くことを俺らは宣言した。

相次ぐ「撤去」に対してはその都度、大部隊で都庁に乗り込み、弾劾行動を繰り返し、奪われた荷物を奪い返す。俺らの徹底したたたかいは、ついに建設局を追い込み、5月以降の「撤去」を中断させ、そして、秋には、14年にも渡り仲間を追い出し続けてきた新宿区の環境浄化対策会議をぶつつぶし、行政の手による追い出し策動を完全に封殺した。この1年間は完全に俺らの勝利である。奴等は、今、手も足もでない。何故か？それは新宿で野宿を強いられている仲間自身が層としてたちあがり、仲間と共に新宿で生き抜くことを決意し、仲間同士の分断を許さず、横のつながりを深くつくって来たからである。同じ仲間を意見が違いうから、生活スタイルが違うから、闘争に出ないからと言って排除するのではなく、同じ新宿で生き抜く仲間と認め合い、共感を得るように話し合い、仲間の繋がりを仲間自身が作ってきたからである。支援者の「外人部隊」だけだったら、行政の奴等はそんなに恐れやしない。支援者はそこに根づいていないから、いつでも襲ってこれる。奴等は最初の頃は、そうやって、山谷人パト班と「いのけん」が来てない時を狙って「撤去」をして来た。が、「殺人事件」を経て、新宿闘う仲間の会という、新宿で野宿する仲間自身の組織が出来、野宿をしている当該の仲間が軸になり、たたかいを前進させて来た時、奴等は、心底恐怖し「撤去」が出来なくなった。しかも、仲間の会は山谷人パト班と「いのけん」と同等に結びついている。奴等にとってはこれ以上怖いものはない。一度手をつければ、火に油を注ぐだけなのを奴等は知っているからだ。

そして奴等が手を出せない、もうひとつの根拠は、俺らが叩き出し反対だけを要求している訳ではないからだ。まともな生活保護を出せ！という、当たり前前の要求を掲げ、新宿福祉に対する行動を具体的に展開し、また、生活を保障しろ！仕事をよこせ！と、総合要求書を掲げ、新宿区に対する要求行動、議会闘争をいどむなど、俺らは、新宿で野宿をしている仲間全体の利益を守る運動をしてきたからだ。追い出し問題だけが俺らの課題じゃない。俺らを取り巻く様々な不利益に対して声を出し、改善を求めるたたかいをやってきた。これは、黙って殺されるのではなく、声を出し俺らの奪われた権利を勝ち取っていくたたかいであると同時に、「追い出すなら追い出せ、だが、その後の俺らの生活はどうするつもりだ」という、俺らが置かれている現状から発する社会への鋭い批判でもある。奴等は「民主主義」の仮面を被っている以上、俺らが発する批判に答えざるを得ない。そして、社会の目を気にして、露骨な追い出しが出来なくなっているんだ。

俺らは一人でたたかって来た訳じゃない。多くの仲間と一緒に、仲間全体の利益のためにたたかって来た。仲間と共に団結を深め、仲間と共に前進してきた。そして、新宿では、新宿連絡会・越冬実を多くの支援者を網羅し形成し、第1回目の新宿越年・越冬闘争を取り組める地平まで来た。確かに新宿には仲間が多い。だが、それを武器にし得るか否かは、仲間自身のたたかいかかっている。仲間が多ければ、反目とか、蹴たおしあいも多くなる。人が多いからといってうまくいくとも限らないのだ。

仲間たち！新宿の仲間が追い出しに反対し、棄民化に抗し、生きるために団結し、西口地下を仲間の拠点としている地平に続こう。

新宿の仲間のたたかいは山谷にも波及した。山谷のセンター前で、野宿を強いられている仲間自身が自分らの飯を作るため自らの手で、材料を刻み、火をおこし、ダンゴを練るという共同炊事の取り組みが連日開始された。新宿で2・17の叩き出しがあった。そして、新宿での取り組みには毎回、山谷の野宿の仲間が合流して一緒にたたかった。山谷では、センター3階での1泊か3泊かの宿泊援護以外には、パンと牛乳が出る位で、まともな野宿者への対策はなに一つない。ダンゴを毎日こねながら、センターの前で布団をひいて皆で寝ながら、仲間同士で相談しあえる関係を作り、自分らの、そして新宿の仲間と結びつきたたかいを考えてきた。新宿の仲間と山谷の仲間が大合流したのが4月20日の九段闘争だった。新たな叩き出しを狙う23区の福祉事務所長会議が開催される予定だった区政会館前の公園で百名近い山谷の野宿労働者と40名の新宿の仲間が合流した結果、所長会議を中止におい込むという大成果を勝ち取った。そして、この成果の上に山谷と新宿をつらぬく反失業闘争実行委員会（準）が結成され、以降、山谷の反失業の仲間と、新宿の仲間の共同行動が本格的に開始される。今でも新宿の炊き出しの時には、山谷の反失業の仲間が中心になり釜で飯を炊き新宿に運びこまれている。飯を通じた、新宿と山谷の仲間の結合が以降、深まって行った。そして、山谷現地では、当たり前前の生活保護を出せと台東福祉事務所に対する行動を開始し、また、センターを百名近い仲間が「一晩「実力占拠」し、宿泊援護の拡大、食券をかちとるという仲間のたたかいが実現された。山谷でも野宿労働者が軸となるたたかいが前進している。

たたかいは二人三脚で前進する。山谷の野宿の仲間も、山谷だけじゃないんだ新宿の仲間もたたかっているんだと頑張り、新宿の仲間もまた同じことを考える。俺らは分散されられているけど、決して一人じゃない。お互いの力を合わせていけば、俺らをゴミのように扱う奴等に必ずやり返していける。

俺らはそう確信している。そして、山谷と新宿の結合だけじゃもの足りない。だから、越冬期、新宿の仲間は、池袋、馬場、渋谷の仲間のもとへとパトロールを繰り出し、共に団結していこうと呼びかけている。山谷の仲間は、上野や東京・銀座、後楽園の仲間のもとへとパトロールに繰り出している。そして、東京・銀座の仲間と共に中央福祉事務所に対する取り組みを行ない、渋谷の仲間と共に渋谷福祉行動をおこなっている。丁度「越冬対策」が23区の枠で行なわれている。俺らはこれを逆手に取り、23区の仲間との結合をもっと深めて行きたい。「なぎさ寮」への面会、「さくら寮」への面会行動もその一環だ。

俺たちがバラバラになったらお終いだ。分断許さず、手を取りあって23区の仲間の団結をつくり出そう。

三、「越冬対策」を逆手に取るう！

新宿の仲間のたたかいは火をつけたのは誤算だったろうが、東京都の連中が、2・17の野望をひっ込めた訳ではない。奴等は、俺たち日雇・下層労働者を安上がり処分するため、野たれ死への攻撃を強めることはあっても弱めることはない。俺たちのたたかいを孤立化させ、社会的な合意を得た上で、再度、野宿者狩りに手を染めることは間違いない。昨年「殺人事件」の時の「ホームレス」潜在的犯罪者キャンペーンそして、最近では「神戸震災の避難所にホームレスが紛れ込んでいる」なるデマキャンペーンも、俺たちに対する偏見を市民に植えつけることを狙ったものだ。社会に偏見を植え付け、それを根拠に俺らを排除する。そんなとんでもないことを奴等は狙っている。

そして、一方では、社会の目を気にしながら、より目立たない形での野たれ死にを奴等は俺らに強制する。昨年の2・17で、最後に登場してきた「越冬対策」がまさにそうである。世間には「保護」しましたと言いながら、実は2週間たったらまた放りだすシステムのいわゆる「法外援護」の適用である。「法外援護」が実施されたのは、新宿が初めてではない。これは、長年山谷のセンターが軸となつて、山谷で行なわれてきたシステムである。食うことと寝ることを行政が握り、鉛玉で労働者を操ると同時に、法内援護（生活保護）をとらせない方法として考え出されたものである。俺らの切実な現実を手玉に取り、生かさぬよう、殺さぬようと食い物と寝る所を月にわずかばかり提供しながら、俺たちの寿命をジワリジワリと短くする。昨年からは23区の枠で開始した「越冬対策」も東京都が長年山谷で適用してきた「センター支配」を23区の枠に広げようとするものである。すなわち、23区の仲間を各区の福祉事務所が懐柔しながら、生活保護を出来るだけ取らせないように仕向け、人知れず仲間を野たれ死へと追い込むことが奴等の狙いなのだ。よくもまあこんな陰險な手を考えたものだ。

今年の「越冬対策」は、俺らのたたかひによって、叩き出しとのセットを中止させ、かつ新宿区内に「施設」を作らせ、また、施設内での「就労対策」を行なわせるなどの成果をかちとっている。が、放っておけば、この「対策」は、野宿者狩りを隠蔽する手段にも使われるなど、非常に危険なものに転化するだろう。

しかし、俺らには、この危険な「対策」を逆手にとつて、それを武器にしていくことが可能だ。「なぎさ寮」「さくら寮」とも、23区の仲間の合流の場所になる。23区の仲間が情報を寄せ合い、共に生きていく方途を見いだせる場所に転化できるし、仲間を作れば、寮内の不利益に力をあわせ反撃していくことだって出来る。「越冬対策」をとことん利用してやる。そして、福祉の連中は高齢か病気の仲間には生活保護を適用しなければならぬ。今まで、施設がないというのを理由に生活保護を積極的に適用しなかったのだから、施設がある今、そんな言い訳は通用しない。しかも、寮が閉鎖されるという理由だけでは生活保護は打ち切れない。継続せざるを得ないんだ。これに加え、今年から「就労対策」を寮内でやらざ

るを得なくなっている。「たった2週間だけ宿泊させてなんになる」という俺らの声が、奴等を追いつ込んだ。越冬対策が終ったからといって「就労対策」は終りという訳にも奴等はいなくなるとはなろう。

収容所と呼ばれていた『なぎさ寮（旧大田寮）』をも、俺らのたたかいは、確実に変えて来ている。「越冬対策」を利用し「越冬対策」を逆手に取り、「越冬施設」を23区の仲間が合流する俺らの寮に変えて行こう。

四、今後のたたかい。

仲間たち！俺たちは『再度の2・17を許すな』を合い言葉に、新宿と山谷の結合をベースにした23区の野宿労働者の団結を作り出していく決意だ。組織的にも新宿連絡会と山谷の反失実との連携をより強固なものにしていくつもりだ。

追い出しやめる！生活を保障しろ！仕事をよこせ！のたたかいを拡大しよう。越冬後段の取り組みを仲間の力で最後までやり切り、その力で野宿労働者が主体となった反失業闘争の前進を各地から生み出そう。

まずは、山谷と新宿を東西の拠点とし、そこからパトロールへと出かけ、分散している仲間と結びつきながら、各地の福祉事務所、区役所に対する取り組みを作り出そう。そして、『なぎさ寮』『さくら寮』への面会・激励行動を強化し、寮の仲間とも結びついていこう。奴等が俺らを隔離・分断するならば、俺らはどこにでも出向いて仲間のつながりを作っていく。

そして、「越冬対策」が終了する3月15日、俺たちは、今日を倍する23区の仲間の結集で都庁・企画審議室に押しかけよう。「越冬対策」が終了したからといって、俺たちの生活がよくなる訳でもなんでもない。仕事をよこせ！生活を保障しろ！と俺たち野宿労働者の怒りの声を都の連中に叩きつけよう。昨年末以来の久々の都庁行動だ。満を持して、一人残らずの仲間呼びかけ、23区から都庁に進撃しよう。

この春は統一地方選だ。選挙戦をも利用しながら、俺らの問題を社会にアピールしていこう。都知事選、新宿区長選、新宿区議会議員選挙が焦点だ。俺らの問題は立候補者の人権感覚をはかるバロメーターだ。各地で選挙戦を利用した暴闘戦をたたかおう。

更に、野宿労働者統一行動第三弾は、5・1野宿労働者統一メーデーだ。労働者の祭典の日に俺たち野宿労働者の怒りの拳をつきあげるデモをやりきろう。

仲間たち！昨年の2・17は、俺らは悔しさをかみしめた。だが、今年は違う。今日この日、俺たちは新たなたたかいの幕あけを仲間同士で誓いあおう！今年の2・17は『反撃の2・17』だ。新宿と山谷そして都内各地の野宿労働者の一大団結で、俺らの生き抜くためのたたかいを大胆に巻き起こそう。

仲間たち！ともに突き進まん。

昨年2.17都・区一体となった叩き出しなら一年----

今晚6時

新宿西口を労働者の怒りで埋め尽せ

昼12時から、なぎさ寮に仲間の面会、激励に行こう

4時半共同炊事終了後、前から出発

新宿西口労働者集会へ結集しよう

昨夕、おれたち日雇労働者のしかかるマスレ地獄と対決し、山谷と新宿をこき全部の日雇労働者の総決起をひたそう。

新宿の街を埋め尽くそう。倒れるまで働き続ける仲間。路上や病院で、ひっそりと息をひそめる仲間。おれたちの労働は、命を賭して命を賭した。おれたちのまわりを、使い捨ての野蠻死かまなり通っている。ぼろぼろ一人は平気でつぶれていけてないからである。

セネコンは人を出して系列化しながら、山谷から撤退し始めた。現場には高層ビルをこき出し、合理化に追い立てる多能工を育成。国いこもうとして、平均年々500円、国策として産業と都市開発の礎として、かり集められた労働者も、また国策としてそっくり処分。差別化してつくる東京部の官僚、役人にも、おれたちが二のまみ

てはくじらった。いかに痛い思いをするか、いかに高くつくな、教えてやろう。力を合わせて生きる闘いは、必ずやり返す力に育つのだ。兵隊官舎には、ホームレスが避難所に入り込んでいる。というふうな長槍が、マ、キャンパンと平然とおこなわれている。外国人が掠奪している。という根も葉もないデマも流されている。それもこれも、被災者の間に序列を打ち出し、支配秩序を回復するための工作だ。

一年前のちやうど二月十七日、都と新宿区は、西口でアオカンする仲間を身ぐるみ剥いで放り出した。大震災よりはるか以前から、家や仕事もなくしてアオカンと強いられている仲間の生命を奪うに等しい行為だ。

冗談やないぞ、おれたちは、まっとうに生きることが労働者としての誇りである。7路上生活者なる畏罵を投げつける都庁は、帝都、東京の墓標にふさわしい。全部の日雇が力を合わせて、217労働者集会をかちとろう。

今日の共同炊事は11時開始。3時半には配食の予定。ないでくれ。

山谷と新宿をつらぬく 95.2.17(金) 反失業斗争実行委(準)

台東区日本堤1-25-11山谷労働者福祉会館内 / 3876-7073

俺たちは2・17を絶対に忘れない。都を許さない

あの日を思い出し、仲間と共に反撃の2・17へ!

俺たち野宿労働者を都内各地から一斉に叩き

2月17日は俺たち新宿の仲間のもとより、全ての野宿する仲間にとって、けっして忘れることが出来ない日だ。東京都・建設局1第3建設事務所の連中は、俺たちの毛布、ダンボール、荷物一切がっさいを暴力的に奪い、俺たちが寝ていた通路をフェンスで囲い、俺たちをゴミのように追い出した。しかも、その上、新宿福祉事務所が「街頭相談」を実施し、追い出された俺たちを大田寮にたったの2週間だけ収容した。家財道具いっさいを奪われ、寒空の中、俺たちは放置された。このため2名の仲間が路上で亡くなった。

今週の金曜日、2月17日、俺たちは昨年の2・17一斉叩き出しを弾劾する統一行動を取り組む。

明日(2/13)はなぎさ寮面会。夜は池袋へのパトロールも行なうぞ。

「反撃の2・17」を迎えよう。あの蛮行を思い返し、あの恨みを思い返し、

俺たち日雇・下層労働者は、この2月17日を決して忘れない。俺たちを虫ケラのように扱い、抹殺しようとする攻撃を決して許してはならんと、山谷の仲間、全国の仲間と協力しながら俺たちは反撃してきた。そして、仲間の団結を深め、たびかさなる追い出しに抗し、区の環境浄化対策会議をぶつつぶし、俺たちは勝利してきた。

俺たち日雇・下層労働者へ、この2月17日に出し、不況の中、いらなくなった労働者を「処分」しようとしてかけられた攻撃だった。

出し、不況の中、いらなくなった労働者を「処分」しようとしてかけられた攻撃だった。俺たち日雇・下層労働者へ、この2月17日に出し、不況の中、いらなくなった労働者を「処分」しようとしてかけられた攻撃だった。

新宿連絡会・越冬実行委
(新宿連絡会・94~95新宿越年越冬闘争実行委員会) 95.2/12
東京都台東区日本堤1-25-11山谷労働者福祉会館気付け ☎ 03(3876)7073

結びつう
面会 ~ 2月12:00
地下通路 柱番号B19
パト ~ 2月9:00
IN:74X-ジャン

今なら誰でもなぎて寮(大田区東海)に入れるぞ

明日皆なで渋谷福祉行こう

2週間の宿泊希望者は、毎週火、金のみ受けつけた
あすは朝8時30分、南口モアイ像前に集まろう

渋谷で野宿する仲間たち！

先週の30日に続き、今日も新宿からパト

ールにやってきた。先週のパトロールでは、

駅と周辺で、54人の仲間と出会った。だが、

夜の時間とあって、寝ている仲間が多く、話

しがいあまり出来なかったのは残念に思う。

これまでのピラでも知らせてきたように、

今、23区の「緊急越冬対策」が実施されてい

る。冬の期間だけ(3月14日まで)、新宿区

と大田区に建てられた寮に、野宿する仲間を

収容するというものだ。十分な対策とは言え

ないもが、体が弱り、寒さの中での野宿がき

つい仲間にとっては、利用する価値はあるだ

ろう。入寮の申し込みは、渋谷区役所の2階

にある、渋谷福祉で受けつけている。

病気を抱える仲間、65歳を越える高齢の仲

間は、生活保護を取って寮に入れば、期間を

限定される事なく、寮にいられる。

若くて、病気の無い仲間でも、2週間の限

度として、寮に入る事が出来る。入寮希望者

は、朝一番の9時に福祉事務所に行けば、確

実にその日のうちに、寮に行く事ができる。

ただし、2週間の宿泊を希望する仲間は、

毎週火曜日と金曜日だけしか、受け付けをし

ないという事だ。注意しよう。

こんな越冬対策の時期でもなければ、カン

パンと三百円を渡して、追い払ってきた渋谷

福祉の悪評は、都内でも知れ渡っている。

この冬の時期くらい、ちゃんとやってもら

わなければ、病気やケガをした時に、安心し

て福祉に相談にすら行けやしない。

今は、渋谷で野宿する仲間であれば、誰で

も寮に入れる。理由のない制限がされないよ

う、監視の目を光らせておかねばならない。

明日は皆なで福祉事務所に行こう。火曜日

なので、誰でも寮に入ることのできる日だ。

あす朝8時30分、南口モアイ像前に集合し

よう。渋谷福祉に皆なで行くぞ！

新宿連絡会・越冬実行委

(新宿連絡会・94~95新宿越年越冬闘争実行委員会) 95 2/6

東京都台東区日本堤1-25-11山谷労働者福祉会館気付け ☎ 03(3876)7073

去る1/2の中央福祉行動では、18人の仲間が寮にはいった

あともう一度中央福祉へ行こう

3/9(木) 時 東京駅の仲間
8 八重洲中央改札口前(旧銀の鈴)
銀座の仲間は
東銀座・歌舞伎座前
に集合だ

東京駅・銀座で野宿する仲間たち！

去る1月12日から、23区の「緊急越冬対策」

が開始された。新宿区と大田区に建てられた二

つの寮に、冬の期間だけ(3月14日まで)、合

わせて三百八十八人を収容するというものだ。

越冬対策の開始の日に、「皆なで福祉事務所

に行こう！」と呼びかけた中央福祉行動には、

東京駅から12人、銀座から9人の仲間が参加、

うち一人は入院、入寮を希望する全ての仲間が、

なぎさ寮に入った。

この行動で、65歳以上の仲間と、病気を抱え

ている仲間は、生活保護の適用を受け、期間を

限定される事なく、現在でも寮で生活をしてい

る。だが65歳未満で病気もない仲間は、2週間

後の1月26日には、寮から出されてしまった。

たったの2週間でも体を休めたい仲間は、ド

ンドン福祉事務所に行こう！病気の仲間、高齢

の仲間は、生活保護の申請をしよう！

中央区の福祉事務所は、「相談に来た人から

事情を聞き、ケースバイケースで寮に入っても

らう。全員が入寮できるわけではない」などと

言っていた。しかし、突然大挙して訪れた仲間

の数に圧倒され、てんてこ舞いの対応に追われ

る始末だった。結局、一人も断る事ができず、

全員が入寮できたわけだ。

しかし、だからと言って中央福祉がまともな

対応をしているとは言えない。普段は、乾燥こ

飯とサバ味噌の缶詰を出して、仲間を追い払っ

ていた対応が、変わった訳ではないのだ。

いつでも、誰が行ってもまともな対応をさせ

るように、明後日の9日、もう一度中央福祉に

押しかけよう！課長・部長クラスの管理職を呼

び出して、約束を取り交わしていこう！

1月12日になぎさ寮に入り、26日に出てきた

仲間は10人いた。この仲間も、退寮後2週間た

てば、再度寮に入る事ができる。9日は丁度2

週間目に当たる。もう一度、中央福祉に皆なで

行こう！集合場所と時間は前回と同じだ！

山谷労働者福祉会館・人民パトロール班

東京都台東区日本堤1-25-11山谷労働者福祉会館 ☎ 03(3876)7073

23区の野宿する仲間とむすびつくぞ! 池袋は、今週と来週に来る

高齢の仲間 ためらわずに

(65歳以上)と

病気の仲間は

福祉事務所に行く

21(火)には、皆なで豊島西福祉へ行くと

21(火) 8:30
西口公園の
トイレ前集合!

どへ行って追いつかれるーこれじゃたまんないぜ
都区の一斉叩き出しに反撃した新宿の仲間と結びつこう!

池袋で野宿する仲間たち!

寒さの最も厳しいこの2月、池袋の仲間たち

ちはどうやって生き抜いているだろうか。

新宿からのパトロールは、今週と来週の2

回、月曜日の夜に回って来る。体・病気・仕

事のことなど、いろんな問題を相談してほし

い。そして、病気を抱えている仲間、高齢の

仲間たちは、来週の火曜日(21日)に、要町

にある豊島西福祉事務所に皆なで行こう。

すでに伝えてきたように、23区の「緊急越

冬対策」が、3月14日まで実施されている。

大田区の「なぎさ寮」、新宿区の「さくら

寮」に、合わせて三百八十八人を収容するも

ので、受け付けは最寄りの福祉事務所だ。

豊島区には、要町の西福祉事務所、大塚の

東福祉事務所がある。2つの福祉事務所とも

「寮に入れる基準」を定めている。誰でも寮

には入れるというわけではない。

「病気やけがを抱えている者、あるいは65

歳以上の高齢者」というのが、「豊島の福祉事務所から寮には入れる基準」だという。

病気と言ったって、「……病」とか大きな

病気じゃなくたって構わない。病院で診察を

受けて、「通院の必要がある」と診断されれ

ば、それだけで寮にはいる事ができる。

寒い季節の中、風邪でもひけばなかなか直

らずに、こじらせてしまう事も多い。「睡眠

と栄養」がほとんど十分に取れない中では、

風邪が肺炎を起こしてしまい、重大な病気に

なってしまう事だってある。悪くならないう

ちに、早めに手をうっておく必要がある。

その時に、今進められている「緊急越冬対

策」は利用価値があると言えるだろう。

俺たちは、これまで都内各地で野宿する仲

間に呼びかけて、福祉行動をつくってきた。

渋谷・中央福祉からも仲間がなぎさ寮に入

った。来週の火曜日は池袋から豊島西福祉事

務所への行動を、皆なでつくっていきこう!

新宿連絡会・越冬実行委

(新宿連絡会・94~95新宿越年越冬闘争実行委員会) 95. 2/13

東京都台東区日本堤1-25-11山谷労働者福祉会館気付 03(3876)7073

217集へ
(くわいはうら面)

俺たちは『94年2月17日・一斉叩き出し』を絶対に忘れない!

あれから
一年

2・17野宿労働者統一行動へ!

・ 昨年の2月17日、東京都と新宿区は、新宿で野宿する労働者の「一斉叩き出し」に打って出てきました。東京都・企画審議室が音頭を取り、建設局・福祉局、さらには新宿福祉が手を合わせ、暴力的な排除を行なったのです。すでにあれから一年の歳月が流れました。

北風の吹く、寒さの厳しい日でした。この日昼過ぎ、西口地下道で野宿する労働者たちに突然、都・建設局の職員と警察官どもが襲いかかりました。寝ていた段ボールハウスをことごとく破壊し、寒さを凌ぐための毛布を奪い、バックなどの荷物の一切を、トラックに乗せて強奪していったのです。「環境整備工事」と称したこの事業は、都庁に向かう通路に植木やフェンスを設置、あからさまに締め出しの意図を示すものだったのです。

一方で都・福祉局と新宿福祉は世間からの批判をかわすために、野宿労働者百人余りを大田区の施設に収容、「人命保護作戦」と称したものの、宿泊期間はたったの2週間で、その後の生活を何ら保障するものではありませんでした。

急増する野宿労働者の存在に対し、何一つまともな対策をやって来なかった都区行政が、唯一実施した事業こそ「2・17叩き出し作戦」でした。野宿を余儀なくされた労働者を、身ぐるみ剥いで路上に放り投げた事―これが「環境整備・人命保護」を掲げた行政の施策の一切だったのです。殺人行為に等しい「事業」を行なう行政が、他のどこにあるでしょうか。

「使い捨ての労働力」として酷使され、不況の下で失職し、住む場所すら失った日雇労働者・下層労働者たち。ひとたび野宿に至れば、冬の路上に放り出され、野たれ死にを強いられる現実に、黙っていて良い訳はありません。

新宿の野宿労働者たちは声を出し、起ち上がりました。

「俺たちはゴミじゃない!」「追い出しをやめろ!奪った荷物をかえせ!」「俺たちの生活と就労の保障を行なえ!」

野宿労働者たちは、東京都と新宿区への抗議行動・要求行動を展開し、「生きる権利」を求めて闘いを開始しました。昨年7月12日には、都区行政を弾劾する、全国でも初めての野宿労働者のデモを勝ち取り、9月には「生活・就労保障を求める総合要求書」を新宿区に提出、区との団体交渉に臨んできました。これらの闘いによって、新宿区が14年間も続けてきた「環境浄化対策」を中止に追いこむ成果をもぎ取りました。

しかし、未だ生活保障・就労対策についての施策は滞っています。

また、地下通路からの追い出しも、決して諦めたわけではありません。行政に頼っていたら、殺されてしまう。今、野宿労働者たちは一人の野たれ死にも出さない―を合い言葉にして、越冬闘争を闘い抜いています。行政の「越冬対策」は、施設に一時凌ぎで収容する域を出るものではありません。私たちは今後も粘り強く、生活・就労保障を求めて要求を続けていくつもりです。

新宿野宿労働者の闘いは、94年2月17日の暴挙への怒りを基礎に続けられて来ました。2・17は闘いの原点であり、怒りを解き放った歴史的な日でもあります。今年のこの日、野宿労働者の新たな闘いの足跡を、確実に刻みこんでいくための、統一行動への支援を訴えます。

「二度と叩き出しをやるな!俺たちは2・17を決して忘れない!」

新宿連絡会・越冬実行委

(新宿連絡会・94、95越冬闘争実行委員会)

東京都台東区日本橋1-25-11山谷労働福祉センター
TEL 03(3876)7073

2月17日統一行動スケジュール

- ① 朝8時から 都庁集合 弾劾行動 全所は 宣言行動、
- ② 昼12時 発着 出さ 寮面 交流会、
- ③ 夜6時 労働者 集会 野宿前